

長野市長選挙公報

令和3年10月31日執行

長野市選挙管理委員会



やすらげる長野市に!!

① 長野市特別緊急給付金!!

(コロナ禍において、経営が苦しくなった事業者の方、政府による時短自粛要請の支援金の対象外になった方、失業や収入減により生活が苦しくなった方への支援)

子ども一人あたり3万円/事業者・障害者・生活保護受給者支援

② 給食費の負担 **ゼロ** 子供の医療費 **ゼロ** 進学費用の **補助** (特に一人親世帯・低所得世帯は負担軽減)

③ 子供へのコロナワクチン接種は、**治験が終わるまで待ちましょう!!** (ファイザー社治験終了 2023年5月予定)

※現在政府が推奨しているコロナワクチンは、治験中のものであり、重篤な副作用や死亡したとしても、製薬会社の補償はありません。

④ 障害を持つ子どもを預けられるように幼稚園・保育園に **支援士を配置** (補助金を支給)

⑤ ワクチンハラスメントの **徹底防止** (職場・学校・会社内および取引先など、他人に対するワクチン接種の促しや、有無を確認、接種者・未接種者への差別・区別すること等の禁止条例制定)

⑥ 新型コロナの予防薬・治療薬の **イベルメクチン**を周知徹底、普及させます

⑦ たばこ税 **減税** (たばこ税は消費税と二重課税になってます!!) ⑧ 犬猫など殺処分 **ゼロ** を目指します



ゆりえ
ゆり恵



中澤 義明

立候補にあたって

一、私は、平日頃、世の中は、弱者の立場を考えて行動するようにすれば、選挙がまわると思う。行政もそのとおりであろう。

二、現在は、少子高齢化といわれるが、現実には、少子高齢化以前の人々や、失業の予備軍は、その数が多いとされる。従って、私も今回、立候補を志す。お任せください。

三、日本では、二世代が全体の大部分を占めていて、その中で、高齢の方々の対策が急務である。特に認知症対策がある。

四、二年前、台風19号で、長野市では、長野地区の千曲川の堤防が決壊し、尊い命が失われ、今でも、住民の方々が、不自由な生活を送られている。長野地区周辺は、長野市でも、一番標高の低いところで、昔から、その治水は、悩まされてきた所である。かつては、この治水は、武田軍と上杉軍が戦ったと言われる。長沼城がある。

この長沼城は地域の治水対策にも利用されている。また、今後は、この治水は地域の防災にも活用される。もちろん、今後は、地球温暖化の影響で、更に雨量が増え、再び災害を及ぼすことが懸念されるので、この地域は、その治水対策として、堤防を高台を建設してあげて、ふたたび、防災施設として利用し、災害時は、地域住民の避難場所として利用しなくてはならない。

五、新型コロナで世界は、感染者が2億4300万人、死者が494万人、救済の処置が立たないと思われ、長野市でも、仕事を失った者や仕事量が急減し、生活に困っている人が多勢に思われる。このコロナ禍は、行政のリーダーは、想定外は、相対内であると考え、責任感を感じ、危機管理能力の高いことを求められる。

六、今後は、コロナの影響もあって、世界中で物価が高騰し、自国の富裕層の上昇が、予想される。農家や林業の収益が、下がると考えられる。以上であり、その中で、御支援の程、よろしくお願ひ申し上げます。

長野市選挙管理委員会 事務局長 元選挙委員 前長野省行総務課長 中澤 義明

さあ! 行こう! 新しい風で、今を超える。みんなで作ろう、長野

新型コロナウイルス感染症対策
ワクチン接種事業を医療関係者や市職員の皆さんなどとの強力なチームワークでやり抜きます。

新型コロナウイルス感染症終息後の景気刺激策
大きな経済的損失を被った飲食・観光・サービス業の皆様に対して、コロナ禍終息後を見据えた景気刺激策を実行します。

防災・復興への取組み
令和元年東日本台風災害で大きな被害を受けた長野市の復旧・復興を強力に進め、変化に対処できる力(レジリエンス)を高め、災害に強いまちを目指します。

未来へ飛躍する6つのアクション

- 教育・福祉・子育て** 子どもたちの夢を応援するまち、長野。誰もが安心して暮らせる環境づくりを進めます。
- 経済振興** 地域の元気を創造する経済活動が活発なまち、長野。「あらゆる業種の地産地消を!」で地域経済の基礎固め、可能性を最大化します。
- 文化・スポーツ振興** 文化・スポーツの振興で市民みんなの笑顔があふれるまち、長野。みんなのココロもカラダも健康に。
- まちづくり** 快適な暮らしに必要な機能があるまち、長野。快適なまちづくりは、市民はもとより、日本中、世界中の人に選ばれる魅力あるまちになります。
- 多様性** 人権が尊重される、誰もが活躍できるまち、長野。誰もがくつろげる自宅のようなまち、一人ひとりが輝く地域をつくりまします。
- SDGs・環境** SDGsや環境問題に対する意識の高いまち、長野。長野市は世界共通の目標達成に協力し、持続可能な社会を積極的に構築していきます。



長野市長候補
おぎわら健司
51歳

守る 感染症から守る
自然・災害から守る
子ども・高齢者を守る

育てる 子どもたちの夢を育てる
産業・文化を育てる

輝く 世界のナガノとして輝く
女性・高齢者すべてが輝く

[事務所]
〒380-0821 長野市上千歳町1 120-1 アレグリアビル1F
TEL.026-223-1555 FAX.026-223-1556

おぎわら健司が掲げる基本政策は
オフィシャルサイトを
ご覧ください

おぎわら健司 オフィシャルサイト
<https://ogiwara-kenji.jp>



市条例の規定により、この選挙公報は、候補者から申請された原稿を原文のまま掲載したものです。

長野市長選挙公報

令和3年10月31日執行

長野市選挙管理委員会

つちや龍一郎 りゅういちろう 「草の根会議」のご意見を政策に取り入れました!

変えていこう! 新しい長野市へ。

長野市で生まれ育った60年、長野市のみなさんと一緒に笑い、悩み、経験し…。この4年間、長野市32地区のみなさんからお聞きしたご意見は絶対に解決していきます! 市民のみなさんと**市政が一緒になって創っていく未来。変えていこう! 新しい長野市へ。**

子育てしやすいまちへ

3つの無料化=財政見直し
給食費・おむつ代・18歳までの医療費

子育て世代支援で人口増加
相談所設置・こども食堂連携・ママ支援

こども増加で高齢者福祉充実
子供が多い日本一の市として高齢者福祉も充実可能

経済活気のあるまちへ

住みたい! 来たい! 長野市へ
市民増加による活気と観光客リビートによる経済効果

儲かる仕組みづくりへ
農業・商業・観光・工業などをサポート

公共施設を最大限活用
ソフト面の充実で既存施設を活性化財源増強

危機管理の高いまちへ

災害地の支援と防止
被災地の支援はもちろん避難経路の明確化など

コロナ対策など
病気の対策もコロナの経験を活かし安心のまちへ

SDGs 促進で未来ある街へ
県と連動しながら未来のある長野市へ全力対応



最新基本政策はWEBで公開中

つちや龍一郎 <https://tsuchiya-ryu.jp/>

女性副市長を登用し視野を広げた市政を!



転換

長野市を変える
3ビジョン+0
子育て・経済活気・危機管理 +コロナ対策

プロフィール

1961年(昭和36年)9月16日生まれ
長野育ちの60歳、長野市妻科(第四地区)在住
【学歴】
みかさ幼稚園、長野市立朝陽小学校入学後転校
信州大学教育学部附属長野小学校・中学校
長野県長野高等学校(サッカー一班所属)
成蹊大学法学部法律学科卒業(軽音楽部・サッカー同好会所属)
【職歴】
(株)ネクストップ代表取締役会長(語学スクール・学習塾)
(株)マチルダ取締役(アパレル業)
(株)北信臨床(旧(株)ツチヤ・エンタプライズ)名誉顧問
元(株)エムウェーブ代表取締役(2017年6月退任)
元土屋薬品(株)監査役(2019年3月退任)
【その他の経歴】
防災士・長野市スケート協会理事・清泉女学院親泉会顧問
長野県長野高等学校PTA会長
信州大学教育学部附属長野中学校PTA会長
1998年度長野JC理事長・2001年度日本JC会頭等を歴任



長野市長候補

つちや龍一郎

りゅういちろう

無所属



無所属 新人

北村あおし
(45歳)

長野市長がやらなければならないこと
私は、子ども食堂への資金提供を行うために私は7月から2ヶ月間毎日街頭に立った。子ども食堂を通して、自分は、困っていることを困っていると言えない人達と連帯意識を持った。私は本来、市長選に出るような大それた事ができるような人物ではない。人前で話すことすら震えてしまう。自分が挫折してしまったと思っている人達、会社に勤めることが長くできないなど様々な悩みを持っている人達。これは自己責任ではない。胸を張って自分の意見を言うってほしい。自分が市長選に出ることにより、自分の意見を言うといった、本来の自由主義を思い出してもらいたい。そういう願いを、メッセージを、みんなに送りたいと思った。
私は自身の人生を通して単純におかしいという疑問を感じていた。そのため、声をあげた。誰かが声をあげる。底辺を生きた人間が声をあげるべきであると考える。今、挫折している人達、みんな、俺と同じように声をあげて欲しい。私が当選した際には、やらなきゃいけないことがある。自分にはできない、譲れないことがある。それは心の支えが私にはあった。だから、やれてきた。だから、自分も心の支え、安全基地になりたい。市民の安全基地になりたい。隣近所助け合う社会を作っていくべきだ。
私が市長になった時にやるべきことは二つ。長野市職員にお願いする。自身が生きるためだけに仕事をしないで欲しい。あぶれた人たちの味方になって欲しい。心を育てるといふことをしたい。結果的には他人のために働き、他人のことを考えられる人を、この長野市役所に増やしたい。金銭的に余裕がなくても、心に余裕のある人物であってほしい。職員の前で私はこれを嘆願する。困っている人のために頑張れる良き人間になってほしいと。この気持ちを持てる人間になることが、今の世界に、日本に一番必要なことだ。自分に出ることは、寄り添えること。自分は、それを市長としての第一の仕事にしたい。二つ目は市政の財源確保である。現在の社会システムは貧困層から吸い上げるだけの形式となっている。私はそれを見直し、大企業に対しての課税も見直していきたい。まずは、税制審議会を立ち上げる。長野市で商売をしていく大企業に、外形標準課税という形で税の負担をお願いしたい。この税は、長野市民の生活をよくしていく。そればかりか、この国からお金をもらう仕組みを変えていけば、この動きは全国に波及し、地方分権は加速していく。そのまず第一歩を長野市がやりたい。長野市はそれを財源として、困っている人に積極的にアプローチする。
この選挙を通して皆さんにもこの日本の仕組みを見直してほしいと思う。これができれば、長野は大きな一歩を踏み出したと言えると思う。長野市長選が新しい日本の第一歩になることを期待している。

投票日は **10/31 (日)**

午前7時~午後8時 (一部地域を除く)

長野市長選挙

投票日に投票できない方は、**期日前投票**ができます

あなたの一票が創る

長野市選挙管理委員会・長野市明るい選挙推進協議会・白バラ会

市条例の規定により、この選挙公報は、候補者から申請された原稿を原文のまま掲載したものです。